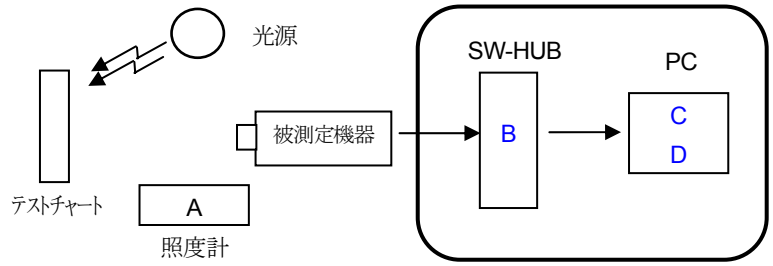
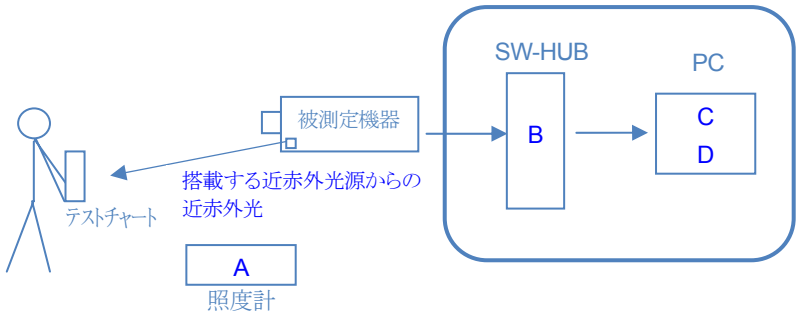
【IP-IF 対応防犯カメラ】

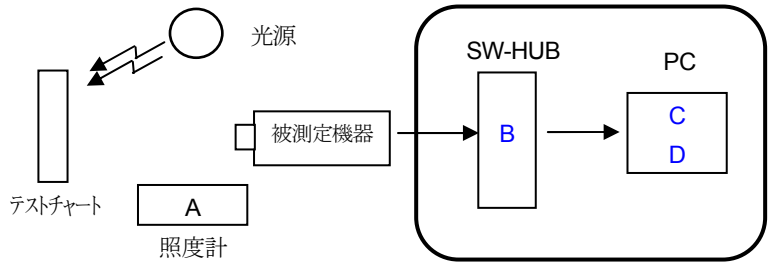
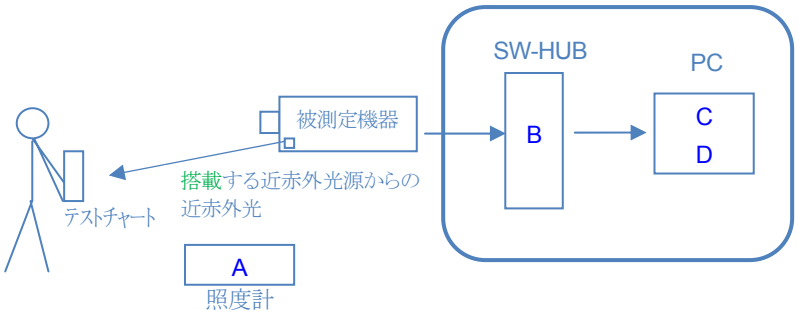
分　類	**5.2　高度機能**	要求数字等
項　目	**5.2.2　デイナイト**	
要求基準	明るい場所でのカラー撮影が可能なこと、赤外カットフィルターが外れている状態で撮影した時の最低被写体照度が基準値であること。	
要求基準を満足する内容	機能 1:明るい場所でのカラー撮影が可能なこと(基準値:8 色以上)。 機能 2:暗い場所で近赤外光を利用した撮影が可能なこと。 性能 1:近赤外光を利用した時の最低被写体照度が、基準値(0.5 lx 以下)を満足すること。 機能 3:暗い場所で搭載した近赤外光源により撮影が可能なこと。照射する近赤外光源の寿命は、30,000 時間以上であること。	
判定内容	NTSC 対応防犯カメラ、IP-IF 対応防犯カメラとも、下記の判定内容を満足すること。 ① 近赤外光源非搭載型カメラの場合は、機能 1 及び機能 2 及び性能 1 を満足すること。 ② 近赤外光源搭載型カメラの場合は、すべての要求基準を満足すること。 評価内容(判定・測定結果・計算式等)が記載された技術報告書で判定する。	
測定系統図(1)	 テストチャート:SES E 3013-1(防犯カメラシステム評価用チャート:カラーチャート)又は JEITA(ITE)テストチャート　I　(ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾁｬｰﾄ　γ=2.2) 光源:色温度　3100K±100K 波形モニタ、照度計は校正品を使用すること。 (注)カメラに近赤外光源を搭載している場合は、その近赤外光源を OFF に設定すること。	
測定系統図(2)	 テストチャート:　SES　評価用チャートの文字・数字チャート 照度計は校正品を使用すること。 照度計での測定が 0 lx かつ、被測定器に搭載した近赤外光以外の光源がない環境で実施すること。	
測定・評価基準		
IP-IF　　機能 1	明るい場所でのカラー撮影が可能なこと。	
	①　測定及び評価方法 測定系統図(1)を用いる。 テストチャート(SES E 3013-1)のカラーチャートを画角 C で撮影し、カラー動画撮影時の動作が正常であるとともに、カラーチャートの色が何色見えるかを確認する。 ②　基準 ・カラー色:8 色以上	
IP-IF　　機能 2	暗い場所で近赤外光を利用した撮影が可能なこと。	
	① 測定及び評価方法	

	(a) 測定系統図(1)を用いる。 (b) レンズはメーカーの撮影画角条件に基づき設定し、JEITA テストチャートを画枠一杯に撮像する。 （ただし、AGC：ON、電子シャッター：1/30、電子感度アップ：OFF とする。） 電子シャッター、電子感度アップ、デイナイトを工場出荷後に OFF できないカメラの場合には、OFF できない機能が動作していない状況での値であることがわかる技術資料、又は強制的に OFF して測定を行った値と技術資料を提出すること。 (c) ND フィルターを重ねてゆき、赤外カットフィルターが外れることを確認する。白黒撮影でも可とする。（ただし、赤外カットフィルターレス・カメラの場合は対象外とする。） ② 基準 ・赤外カットフィルターが外れること。	
IP-IF　　性能 1	近赤外光を利用した時の最低被写体照度	
	① 測定及び評価方法 ・機能 1 と同様な方法を行う。 ・機能 2 を行なって、さらに ND フィルターを重ねてゆき、チャート中央の白が 50%になったときの照度を求める。 高倍率ズーム搭載タイプについて TELE 端の最低被写体照度は、高倍率ズーム搭載タイプは必ず記載のこと（換算値でも可とする）。 ② 基準値：N1 ・最低被写体照度：0.5lx 以下（最低被写体照度の換算値の算出過程を明示すること） ・電子感度アップ OFF できないカメラは、5.1.10（最低被写体照度）の技術報告書を添付する。	
IP-IF　機能 3	暗い場所で搭載した近赤外光源により撮影が可能なこと。照射する近赤外光源の寿命は、30,000 時間以上であること。	
	① 測定及び評価方法 (a) 測定系統図(2)を用いる。 (b) カメラの測光エリアや AGC などの設定を最適な状態にし、SES 評価用チャートの文字・数字チャートを画角 A で撮影する。 (c) 近赤外光源が OFF の状態だと、モニタ上では何も見えないことを確認する。その状態で、近赤外光源を ON にすると、チャートの⑤列目の数字が識別できることを確認する。 (d) 同様に、画角 B で撮影すると、チャートの①列目の文字が識別できることを確認する。 ② 基準 ・使用する近赤外光源の推定寿命が、30,000 時間以上である書類があること。 ・“画角 A で⑤列目の数字、画角 B で①列目の文字”が識別可能であること。	
機能表示書類	提出書類に、表題「項目」が具備されていることを説明する書類（仕様書、取扱説明書、HP 掲載内容のコピー等のいずれか）を提出すること。	
備　考	・赤外カットフィルターが常時入っている例として、昼夜の条件でも通過帯域を変えないフィルターを採用して、夜間にカメラに設置されている赤外線のランプを照射して最低被写体照度を改善する防犯カメラは、対象とする。 ・ND フィルターは管理されたものを使用すること。 ・スモークカバーを採用している場合でも、最低被写体照度の基準値を満足すること。 ・添付書類 ① フォーカスボケの配慮（近赤外対応レンズ、フォーカス調整機構など）に関する書類。 ② 赤外カットフィルターレスカメラの場合は、明るい環境下における色再現性について工夫している機能あるいは測定結果。 ・近赤外光源の寿命については、近赤外光源に使用する赤外 LED 製造業者による加速度	

	試験結果（周囲温度・電流値などをパラメータとした光束維持率の時間変化を示した文書）から、カメラメーカーが規定するカメラの使用条件に対して、論理的に導き出した推定寿命を用いてもよい（ただし、カメラの使用条件のうち周囲温度は 25℃、電流値は使用上の最大値として推定寿命を算出すること。）。また、寿命は、LED が点灯しなくなるまでの総点灯時間、又は全光束が点灯初期に測定した値の 70%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短い方の時間とする。 ・被測定機器が複数の高度機能を申請している時に、他の高度機能との組合せに制約事項がある場合は、申告をすること。	

(申請者提出用様式(例)記載サンプル)

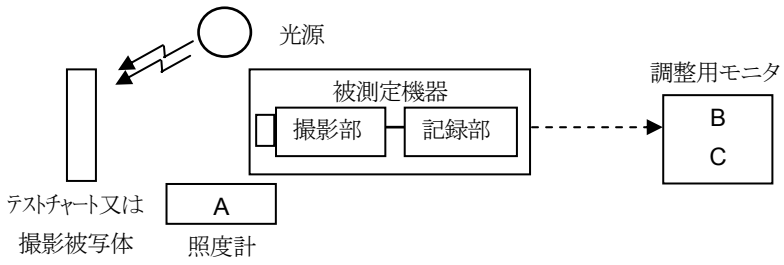
【IP-IF 対応防犯カメラ】

技　術　報　告　書【型式　　】		測定日　年　月　日
会 社 名: 所属部署: 測 定 者:		
分　類 項　目	**5.2　高度機能** **5.2.2　デイナイト**	
被測定機器の選択	カメラ型式:　　(使用レンズ:型式　　、メーカー　　) カメラタイプは、○で選択したとおりです。 (1) [ ] 標準タイプ　[ ] 高倍率ズーム搭載タイプ　[ ] スモークドーム搭載タイプ (2) [ ] 近赤外光源非搭載型　[ ] 近赤外光源搭載型	
測定系統図 (1)	測定系統図を記載する(系統図が複雑な場合や複数の場合は別紙添付すること)  テストチャート:SES E 3013-1(防犯カメラシステム評価用チャート:カラーチャート)又は JEITA(ITE)テストチャート　I　(ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾁｬｰﾄ　γ=2.2) 光源:色温度　3100K±100K 波形モニタ、照度計は校正品を使用すること。 (注)カメラに近赤外光源を搭載している場合は、その近赤外光源を OFF に設定すること。	
測定系統図 (2)	 テストチャート:　SES　評価用チャートの文字・数字チャート 照度計は校正品を使用すること。 照度計での測定が 0 lx かつ、被測定器に搭載した近赤外光以外の光源がない環境で実施すること。	
測定器一覧	記号 / 機器名称 / 型式品番 / 製造会社 / 校正年月日(購入年月日) A / 照度計 B / 推奨ネットワーク機器 C / PC D / PC 表示ソフト	
添付書類	・下記○印がついた技術解説書類を別紙□に添付します。(複数選択可能) [ ] 最低被写体照度の換算値の算出過程の技術解説書(チャート面照度、使用 ND フィルターを明記すること。) [ ] 適合近赤外対応レンズ一覧とフォーカスボケ対策機能の技術解説書	機能に関する技術解説がある場合は、別紙□で説明す

	[ ] 明るい環境下における色再現性説明書あるいは測定結果(フィルターレスカメラ) [ ] 5.1.10(最低被写体照度)で提出した技術報告書(電子感度アップが OFF できないカメラ) [ ] 近赤外光源の寿命(推定寿命)が 30,000 時間以上であることが分かる技術解説書等 ・下記に該当する場合は、□欄にチェックをすること。 □ 映像信号量子化レベルが ITU-R Rec.BT.601 に基づいています。 □ 映像信号量子化レベルが ITU-R Rec.BT.601 に基づかないため、別紙□で説明します。 □ レンズ交換型において使用したレンズの測定値は、他の測定項目と共通とするために、F 値が大きいものを代表として記載します。技術報告書の 3.4"組合せ構成表"、3.4.1"組合せレンズ部"で申告しているレンズは全て組合せ試験を実施し、基準を満足していることを確認済みです。適合するレンズの一覧は、そちらを参照してください。	ること。
総合評価	総合評価は、下記のとおりです。(該当する項目を○で囲む) 合格／不合格	小数点以下がある場合には 1 桁とする。
機能 1	・カラー色:8 色が見えます。	
機能 2	・赤外カットフィルターが外れる確認:(　　)にて確認。 (ただしフィルターレスカメラは対象外)	
性能 1　N1	・最低被写体照度:(　．)lx (F　．)	
	・チャート面照度 (　　．) lx, 、使用 ND フィルターND(　　)	
	(参考値)最低被写体照度:(　．)lx (F　．)、TELE 端 ← (TELE 端の記載は、高倍率ズーム搭載タイプは必ず記載のこと(換算値でも可とする)。	
機能 3	・画角 A で⑤列目の数字全てが識別可能(OK／NG)。 ・画角 B で①列目の文字全てが識別可能(OK／NG)。	
機能・性能表示書類	下記書類の中で○印の書類を添付します。(複数選択可能) [ ] 仕様書、 [ ] 取扱説明書、 [ ] HP 掲載内容のコピー、 [ ] 技術解説書など	必要部数は別途指定
仕様書 取扱説明書 HP 掲載	頁、(　)行目の定格・性能等の欄に、上記項目の機能が記載されています。	
責任者押印等	上記内容を申請いたします。 測定責任者:　　(電子入力で代用可:自筆不要)	**測定責任者押印欄**

注記　氏名・年月日欄等は電子入力で代用可能です(自筆不要)。

【IP-IF 対応防犯カメラ】

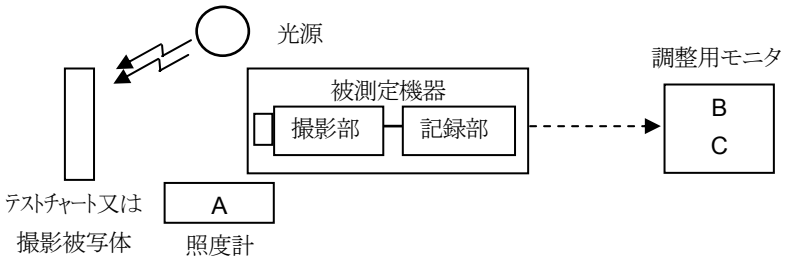
分 類	**5.2 高度機能**	要求数字等
項 目	**5.2.10 記録一体型屋外用**	
要求基準	撮影部と記録部が一体として機能でき、屋外用として使用できる耐環境性能を持っていること。	
要求基準を満足する内容	機能 1:撮影部の他に記録部、電源部があり、一体として機能すること。 機能 2:記録レートと記録時間が基準値を満足すること。 機能 3:記録画像を取り出し、確認用ソフトなどを使って再生が可能なこと。 機能 4:記録部の機器正常確認と機器異常確認機能があること。 機能 5:調整用モニター出力があること。 性能 1:入力映像を連続記録する性能基準を満足すること。 性能 2:記録画質と画像サイズが基準値を満足すること。 性能 3:被測定機器の日時が基準精度を確保できること。 性能 4:屋外用としての耐環境性能があること。 表記 1:基本操作の手順を記載した書類を提出すること。	高度機能、記録一体型屋外用を申請するには、防犯カメラの RBSS 第 5 章共通機能が全て満足することが前提である。 また、関連する第 3 章と第 7 章も事前確認すること。
判定内容	NTSC 対応防犯カメラ、IP-IF 対応防犯カメラとも、すべての要求基準を満足すること。 評価内容(判定・測定結果・計算式等)が記載された技術報告書で判定する。	
測定系統図	 テストチャート:SES E 3013-1(防犯カメラシステム評価用チャート)又は RBSS 画質(静止画) A3 評価用チャート 光源:色温度 3100K±100K 照度計は校正品を使用すること。	5.2.10 で“調整用モニタ”を採用する場合は、RBSS 第 5 章共通機能の各項目の測定系統図“PC”を“調整モニタ”に修正すること。
測定・評価基準		
NTSC&IP-IF 機能 1	撮影部の他に記録部、電源部があり、一体として機能すること。	
	① 測定方法 一体型(スタンドアロン型)か組合せ型のどちらかの機能があるか判る内容が記載されている公式書類を提出する。 ② 評価方法 ・一体型(スタンドアロン型)か組合せ型のどちらかの機能があるかを確認する。 ・組合せ型の場合は、同梱している専用ケーブルで、“ハウジング(撮影部)と収納ボックス(記録部)間の距離が 1.5m 以内で設置すること”を要件としているかを確認する。 ③ 基準 一体型(スタンドアロン型)か組合せ型かの機能を有していること。	*公式書類とは、仕様書、取扱説明書、カタログ等、ユーザーが入手可能な書類 (5.1.2 機能1 参照)*
NTSC&IP-IF 機能 2	記録レートと記録時間が基準値を満足すること。	
	① 測定方法 下記の条件下で、連続記録を行う。 ＜条件＞ ・撮影部と記録部を接続する。 ・「RBSS 画質(静止画)A3 評価チャート」を撮影し、記録画像サイズと記録画質は性能 2 の基準値を満足するものとする。 ・記録レートの測定:2 コマ／秒以上とする。	*＜参考機能DVR＞ 機能2:5.1.3 記録レート 機能2、5.1.4 記録時間 機能2*

N1	・記録時間の測定:記録レートを 2 コマ／秒以上で記録する。 ② 評価方法 ・記録画像を再生し、2 コマ／秒以上で記録できていることを確認する。 ・記録レートを 2 コマ／秒以上として、1 週間(168 時間)以上の映像を内蔵記録媒体などへ記録できることを公式書類にて確認する。 ② 基準値:N1 及び基準 ・2 コマ／秒以上 ・基準値 N1 で記録し、1 週間(168 時間)以上の映像を内蔵記録媒体などへ記録できること。	
NTSC&IP-IF 機能 3	記録画像を取り出し、確認用ソフトなどを使って再生が可能なこと。	
	① 測定方法 記録取り出しについて、取り出し方法、画像情報、記録画質などが判る内容が記載されている公式書類を提出する。 ② 評価方法 1)内蔵メモリカードスロットによる取り出し ・被測定機器に内蔵されたメモリカードスロットを使用して、SDカードなどの対応メディアに記録画像を取り出せるか確認する。 ・対応メディアを簡単に抜き出せない構造を持つか、記録画像を第三者が再生できないようにパスワードなどで保護するなどの対応ができているか確認する。 ・取り出した記録画像を付属等のソフトで再生できることを確認する。 2)LAN などによる取り出し ・被測定機器に内蔵された LAN などを使用して、近傍にある PC などの受信部へ記録画像を送れるか確認する。 ・記録画像を第三者が再生できないようにパスワードなどで保護するなどの対応ができているか確認する。 ・取り出した記録画像を付属等のソフトで再生できることを確認する。 3)画像情報は、年月日、時刻と関連された情報として取り出せることを確認する。画像に対応した時刻などがわかることを記載した添付資料を確認する（なお、ファイル名への日時情報の付加でも可とする）。 4)被測定機器の現日時(月、日、時、分、秒)の表示がわかるか確認する。 5)取り出した画像が、RBSS 画質を満足することを確認する。 ③ 基準 ・記録画像の取り出しを評価方法 1)か 2)の方法でできること。 ・取り出した記録画像をPCなどで再生するソフトが付属されていること。なお、再生ソフトには表示機能、日時検索機能、通常再生及び変速再生機能があること。 ・取り出した記録画像の画像情報が評価方法 3)にもとづき確認できること。 ・現日時（月、日、時、分、秒）の表示を確認できること。 ・取り出した記録画像が RBSS 画質を満足すること。	*＜参考機能DVR＞* *機能3:5.1.5 記録画像取り出し 機能3、5.1.8 日時検索機能3、5.1.9 通常再生、変速再生 機能3* *構造:特殊ねじ使用* *近傍:5m以内* *画像が盗めない仕組み:パスワード、暗号化、専用電波など* *変速再生機能:一時静止再生、順方向コマ送り再生、早送り再生、早戻し再生の機能*
NTSC&IP-IF 機能 4	記録部の機器正常確認と機器異常確認機能があること。	
	① 測定方法 任意の通常記録中に記録媒体をはずすか、電源を遮断する。 ② 評価方法 通常記録中と異常動作中の本体（被測定機器）の外部表示が変わることを確認する。 ③ 基準 通常記録中と異常動作時中の本体外部表示の区別ができること。	*外部表示:赤色が異常と青色（緑色）が正常を推奨する*
NTSC&IP-IF 機能 5	調整用モニタ出力があること。	
	① 測定方法 被測定機器のモニタ出力に、10m 程度離した位置にある対応したモニタを接続し、防	*調整用モニタ出力の目的:現場での画角*

	犯カメラシステム評価用チャートまたは RBSS 画質（静止画） A3 評価用チャートを撮影し、画角 A でのピント調節を行う。 ② 評価方法 画角調整とフォーカス調整ができ、画角 A で⑤列目の文字を確認する。 ③ 基準 画角 A で⑤列目の文字全てが判別可能なこと。	*とピント調整用及び被測定機器の現時刻表示* *出力映像信号種類はNTSC に限定しない*
NTSC&IP-IF 性能 1	入力映像を連続記録する性能基準を満足すること。	
N2	① 測定方法 ・1/30 秒ごとに変化する被写体を撮影し、RBSS 画質(静止画)を満足する画質設定にして 2 コマ/秒以上で被測定機器に 1 時間記録時、停電を 5 回発生させ毎回再起動させる。 ・記録媒体の連続性能（交換時期等）が判る内容が記載されている公式書類を提出する。 ② 評価方法 ・各停電後記録動作に自動復帰すること。更に停電発生前の画像が確認できること。 ・提出された書類の連続性能（交換時期等）の記載を確認する。 ③ 基準値:N2 及び基準 ・5 回停電後も記録動作に自動復帰すること。又は UPS を使用する条件で記録動作に自動復帰すること。 ・記録媒体の連続性能（交換や時期）の記載が適切であること。	*停電させる被測定機器:撮影部と記録部の両方*
NTSC&IP-IF 性能 2	記録画質と画像サイズが基準値を満足すること。	
N3	① 測定方法 1)圧縮方式 被測定機器の記録圧縮方式が記載された書類を提出すること。複数の圧縮方式がある場合には全ての方式を明示すること。 2)RBSS 画質(静止画)を満たす画質 「RBSS 画質(静止画)A3 評価チャート」を 2 コマ/秒以上で 1 分間以上撮影記録する。 「RBSS 画質（静止画）評価シート」で評価を行う。 3)動画圧縮の画崩れ 2)の画質設定において、動きのある映像を記録再生する。 4)画像サイズ 画像サイズが記載された書類を提出すること。 ② 評価方法 1)圧縮方式を明確にすること。 2)【付録資料 02】「RBSS 画質(静止画)評価シート(最新版)」に準じること。 3)使用する映像について以下の例を示す。 ・静止した背景を移動する人物、車など ・回転台がついたカメラでパン／チルトを行う 4)提出された書類を確認すること。 ③ 基準及び基準値 N3 ・静止画圧縮方式、動画圧縮方式であるかが明確であること。 ・RBSS 画質(静止画)を満たす画質であること。【付録資料 02】「RBSS 画質(静止画)評価シート(最新版)」にもとづき、3 つのチャート、3 つの画角の、すべての条件で OK であること。 ・記録した画像を再生し、動いている人物・車などの識別が著しく困難になったり、画像全体に画崩れ等をおこさないこと。 ・水平 640 画素以上×垂直 240 画素以上であること。	静止画圧縮方式: JPEG、 M-JPEG、 JPEG2000、 Wavelet、独自 動画圧縮方式: MPEG-2、 MPEG-4、 H.264/MPEG-4 AVC、独自
NTSC&IP-IF 性能 3	被測定機器の日時が基準精度を確保できること。	

N4	① 測定方法 ・被測定機器本体の日時と、有線アナログ電話回線等による時報(ダイヤル 117)との誤差を測定する。 ・被測定機器の日時と時報との誤差（月差）を記載した公式書類及び対応方法が記載されている技術解説書を提出する。 ② 評価方法 ・被測定機器と時報（ダイヤル 117）との誤差(月差)を評価する。 ・誤差(月差)を N4 以内に維持する方法（電波時計の正時調整等）の記載を評価する。 ・誤差(月差)が基準値 N4 を維持できない場合についての対応方法を確認する。 ③ 基準値 N4 及び基準 ・被測定機器と時報（ダイヤル 117）との誤差(月差)が、常に±30 秒以内であること。 ・誤差(月差)が基準値 N4 を維持できない場合の対応方法が妥当であること。	*誤差:月差 30 秒以内* *対応方法:公式書類等の対応方法は備考に解説と例を記載*
NTSC&IP-IF 性能 4	屋外用としての耐環境性能があること。	
N5	① 測定方法 SES E 0004-3（環境試験規定）4.4 防水試験において、被測定機器の防水等級の保護超級が 5 以上であり、IP コードの第二等級が 5 以上であることが判る内容が記載されている公的書類（及び耐雨を考慮した施工要領書等も含む）を提出する。 “組合せ型”の場合は、防水試験をハウジング（撮影部）と収納ボックス（記録部）を個別に行なった公的資料（及び耐雨を考慮した施工要領書等も含む）でもよい。 ② 評価方法 IP コードの第二等級が 5 以上かどうかと施工方法が適切であるかを評価する。 ③ 基準値:N5 被測定機器の IP コードの第二等級が 5 以上であること。	*被測定機器には、撮影部と記録部及び必要に応じて専用接続コードを含む。試験は部別でも良い。施工方法として、配線の入線方法など IP×5 以上*
NTSC&IP-IF 表記 1	基本操作の手順を記載した書類を提出すること。	
	① 測定方法 ・被測定機器の基本操作手順を、共通書式、記載事項、基本操作項目、記載例にもとづき記載した書類を提出すること。 ・NTSC 対応防犯カメラは 4 ページ、IP-IF 対応防犯カメラは 6 ページで記載すること。 ② 評価方法 提出された基本操作手順書を確認する。 ③ 基準 基本操作手順書が共通書式で記載されており、記載された手順で実行できること。	共通書式、記載事項、基本操作項目、記載例は、RBSS デジタルレコーダ（防犯用）別冊 5.1.13 基本操作手順書に掲載している。
機能表示書類	提出書類に、表題「項目」が具備されていること説明する書類（仕様書、取扱説明書、HP 掲載内容のコピー等のいずれか）を提出すること。	
備 考	・性能 3 対応方法:記録一体型屋外用防犯カメラにとって、記録日時の正確性は大変重要な性能である。被測定機器の性能が基準値 N4 を満足することを前提にするが、適時に時刻修正ができないと年間約 6 分以上の時刻ずれが発生する。したがって、電波時計等での正時調整や NTP サーバー連携等ができない場合には以下 2 項目を必須項目とする。 ①記録画像取り出し後の混乱を避けるため、記録媒体取り出し口付近に「本器の現時刻はずれている可能性があるので画像取り出し時には本器の現時刻を確認してください。」等の注意書きがあること。この注意書きは公式書類などにも記載のこと。 ② 公式書類に、年 1 回の定期点検を推奨する説明の記載があること。 ・高度機能の申請と、重複申請により高度機能の内容が制限や影響がある場合には、第 3 章 3.3 動作概要③に概略を記載するとともに、本項の技術報告書に別紙技術解説書を添付し詳細内容を記載すること。	LAN などによる取出しの場合、調整用モニタに注意喚起などの表示を行うこと。

【IP-IF 対応防犯カメラ】(申請者提出用様式(例)記載サンプル)

技 術 報 告 書【型式 】	測定日	年 月 日
会 社 名: 所属部署: 測 定 者:		
分 類 項 目	**5.2 高度機能** **5.2.10 記録一体型屋外用**	
被測定機器の選択	被測定機器が具備している機能に該当するものは、下記の中で○が付いた機能です。 [ ] 一体型 [ ] 組合せ型	
測定系統図	測定系統図を記載する(系統図が複雑な場合や複数の場合は別紙添付すること)  テストチャート:SES E 3013-1(防犯カメラシステム評価用チャート)又は RBSS 画質(静止画) A3 評価用チャート 光源:色温度 3100K±100K 照度計は校正品を使用すること。	5.2.10 で"調整用モニタ"を採用する場合は、RBSS 第 5 章共通機能の各項目の測定系統図"PC"を"調整モニタ"に修正すること。
測定条件		
測定器一覧	記号 / 機器名称 / 型式品番 / 製造会社 / 校正年月日(購入年月日) A / 照度計 / / / B / 調整用モニタ (PC) / / / C / PC 表示ソフト / / /	
添付書類	・下記○印がついた技術解説書類を別紙に添付します。(複数選択可能) [ ] 組合せ型の場合はハウジングと収納ボックスと専用ケーブルについて記載した書類(※1) [ ] 記録レート 2 コマ/秒以上での記録時間表(※1) 機能 2 [ ] 画像電子データ(CD-R 等)評価画像(※1) 機能 3、性能 2 [ ] 再生するソフトの提供方法を示す書類(※1) 機能 3 [ ] 現時刻表示確認手順がわかる書類 機能 3 [ ] 画像に対応した時刻などがわかることを記載した書類 機能 3 [ ] 消耗部品の交換時期や目安時間が記載されている公式書類 性能 1 [ ] RBSS 画質(静止画)評価シート(最新版) (※1)性能 2 (※2) [ ] 誤差(月差)が基準値 N4 を維持できない場合の対応方法の書類(※1)性能 3 [ ] 基本操作手順書(※1)表記 1	(※1)は必須 機能に関する書類は、別紙技術解説書を提出する。公式書類に記載があればその書類提出は不要。 (※2)【付録資料 02】「RBSS 画質(静止画)評価シート(最新版)
総合評価	総合評価は、下記のとおりです。(該当する項目を○で囲む) 合格/不合格	
機能 1	・一体型(スタンドアロン型)か組合せ型かの機能を有していること ( )型の書類を確認(OK/NG)。	
機能 2	・連続記録の記録レート ( )コマ/秒以上。 ・提出書類により 1 週間以上の記録ができることを確認(OK/NG)。 ・評価した画質設定名【 】 画像サイズ【 】	

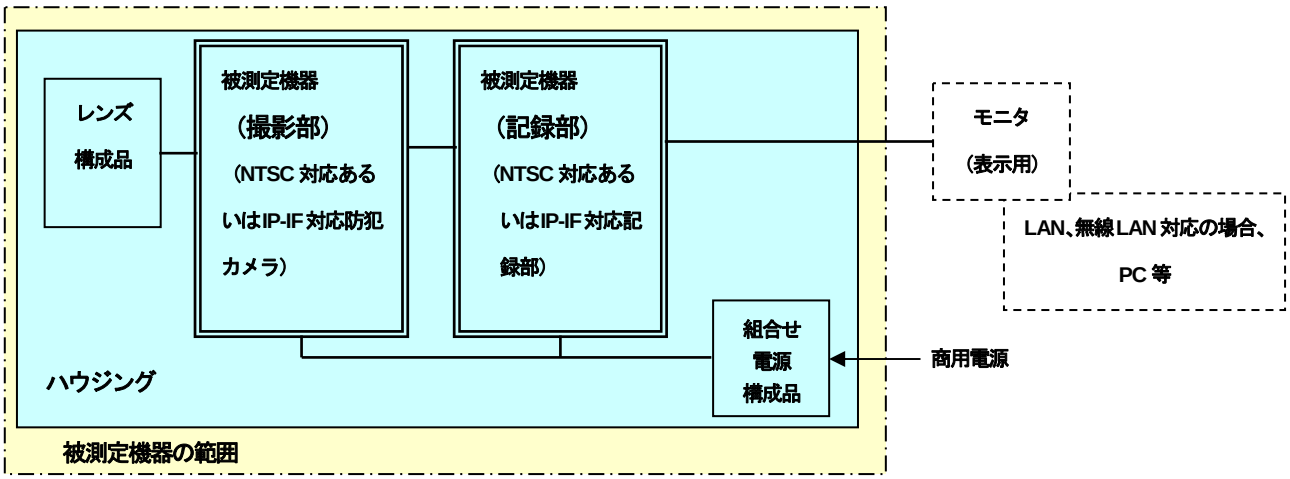
機能 3	・記録画像取り出しの搭載機能は【内蔵メモリカードスロット、LAN など、　　】で、記録画像を第三者が再生できないように【　　】の対応をしています。 ・取り出した記録画像を PC 等で再生するソフトは【　　】を【添付、バンドル、　】しています。 ・再生ソフトには【表示機能、日時検索機能、通常再生、変速再生機能】があります。 ・提出書類により、記録画像の画像情報が評価方法 3)にもとづく確認(OK／NG)。 ・提出書類により、被測定機器の現時刻表示ができる確認(OK／NG)。 ・取り出した記録画像の評価画像データ確認(OK／NG)。	
機能 4	・通常記録中は【　　】と異常動作時中は【　　】で本体外部表示の区別ができます。	
機能 5	・調整用モニタを使い、画角 A で⑤列目の文字全てが判別確認(OK／NG)。	
性能 1	・5 回停電後も記録動作に自動復帰すること(OK／NG)。 ・提出書類により、記録媒体の交換時期を確認(OK／NG)。	
性能 2	・圧縮方式は、静止画圧縮方式【　　】、動画圧縮方式【　　】です。 ・RBSS 画質の基準値を満たす画質設定と画像サイズは、【画質設定名　×画像サイズ　、画質設定名　×画像サイズ　、　　】の【 】種類です。 ・動画像再生の動いている人物・車などの識別良好、画くずれが起きない確認(OK／NG)。	画質名は全て記載すること。
性能 3	・測定開始日時:【　年　月　日　時　分】、測定終了日時:【　年　月　日　時　分】 測定終了後の時報 117 との誤差(月差)【　　】秒。 ・誤差(月差)が基準値 N4 を維持できないので、技術解説書を提出します。	月差が公式書類に記載されている場合は書類提出で良い。
性能 4	・被測定機器の IP コードの第二等級が 5 以上である確認 (OK／NG)。	
表記 1	・基本操作手順書が共通書式で記載され、記載された手順で実行できる確認(OK／NG)。	
機能・性能表示書類	下記書類の中で○印の書類を添付します。(複数選択可能) [ ] 仕様書、[ ] 取扱説明書、[ ] HP 掲載内容のコピー、[ ] 技術解説書など	必要部数は別途指定
仕様書 取扱説明書 HP 掲載	機能 1、機能 2、機能 3、機能 4、機能 5、性能 1、性能 2、性能 3、性能 4 について 頁、( )行目の定格・性能等の欄に、上記項目の機能が記載されています。	*不要な機能名、性能名は削除*
責任者押印等	上記内容を申請いたします。 測定責任者:　　(電子入力で代用可:自筆不要)	**測定責任者押印欄**

注記　氏名・年月日欄等は電子入力で代用可能です(自筆不要)。

付属資料-08

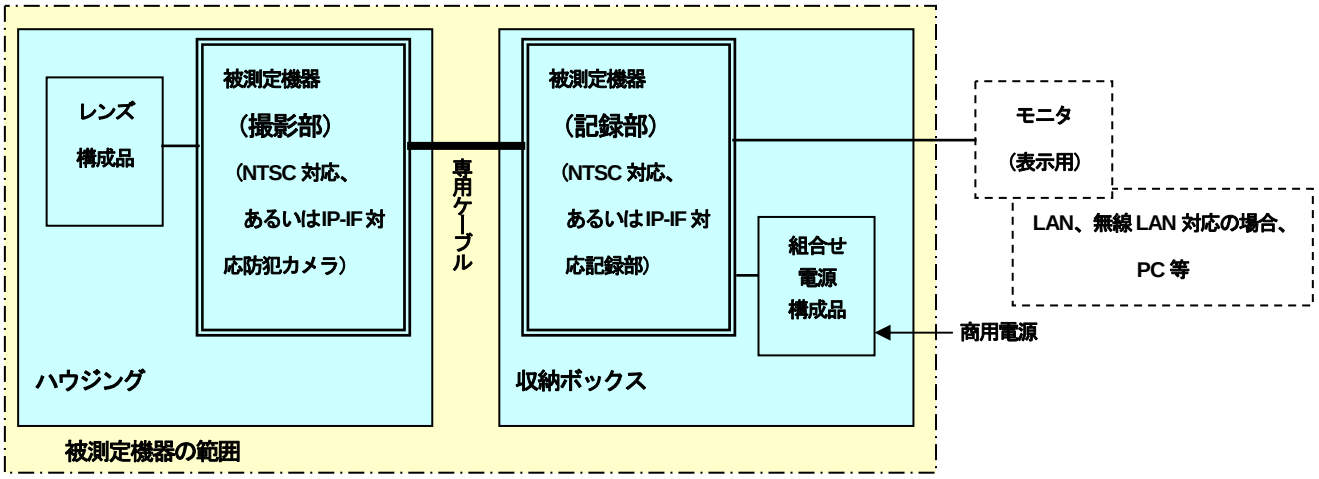
標準構成：記録一体型屋外用　（高度機能“5.2.10 記録一体型屋外用”を申請する場合の記載例）

タイプ1　一体型（スタンドアロン型）



注記　IP-IF対応防犯カメラ等の場合、組合せ電源構成品として外付けの収納ボックスからPoE電源の供給ができるものとする。ただし、PoE電源用収納ボックスは、高度機能 “5.2.10 記録一体型屋外用”の性能4の耐環境性能を満足する必要がある。

タイプ2　組合せ型



【IP-IF 対応デジタルレコーダ(防犯用)】

分 類	**5.1 共通機能**	要求数字等
項 目	**5.1.13 基本操作手順書**	
要求基準	基本操作の手順を記載した書類を提出すること。	
要求基準を満足する内容	基本操作が共通書式で記載されていること。 基本操作が記載された手順で実行できること。	
判定内容	NTSC 対応デジタルレコーダ、IP-IF 対応デジタルレコーダとも、すべての要求基準を満足すること。 評価内容が記載された技術報告書(基本操作手順書)で判定する。	
測定・評価基準		
IP-IF 表記 1	共通書式	
	① 形式 Microsoft Office Excel ブック(Word 形式でも可とする)を Adobe PDF A4 縦 に変換した形式 Excel での余白:上 2.0, 下 1.5, 左 2.0, 右 2.0, ヘッダー1.3, フッター1.3 Excel での行高さ (ワークシートの行高さ): 16.5 (22 ピクセル) ひとつの手順は、セルを結合、折り返して全体を表示、横位置:標準、縦位置:上詰め 全体で 6 頁、一連の手順は 1 頁内に記述することが望ましい(原則は、記入例に基づくページ配分とすること) ② 言語・文字 日本語、機器のパネル表記が日本語以外の単語は原文の単語を使用可 白黒印刷にて明確に判別可能な絵文字・アイコンは使用可 漢字・かな・カナ: MS P 明朝 10 ポイント、 英数: Century 10 ポイント 英数字:半角、 漢字:全角、 かな:全角、 カナ:全角又は半角、句読点:全角 文末:「。」 省略を基本、文中:「、」、 カンマ、スペース、記号 は前後の関連から 全角又は半角 ③ 手番の表記 数字 123・・・、手順に分岐が生じる場合は ABC ・・・ を併記 (例:手順 3 が 2 種に分岐する場合) 1→ 2→ 3A→ 3B→ 4→ ④ ボタン・端子の表記 パネルや設定画面のボタンの表記: [ボタン名] (例) [再生] 端子名の表記: 端子名(~ 端子) (例) ビデオ出力(前面端子) ⑤ 簡潔な表現 ～押します → ～押す、 ～選択します → ～選択	
IP-IF 表記 2	記載事項	
	・記入日 :年 4 桁、月 1～2 桁、日 1～2 桁、区切りは「.」 (半角**ピリオド**) ・機器型式 :形式・品番を記載 (多機種に適用できる場合は対象機種範囲を記載) ・事業者 :事業者の会社名を記載	
IP-IF 表記 3	基本操作	
	① 表示装置の接続確認 (モニタの種別として NTSC・VGA 等の表示、複数併記可) ② モードロック解除 (複数の解除が必要な場合はすべて記載) ③ 記録画像の再生 ④ 記録画質の確認 ⑤ フレームレートの確認 ⑥ 画像取出し方法の概要 ⑦ モードロック設定 ⑧ 前面パネルおよび参考図	
機能表示書類	提出書類に、表題「項目」が具備されていることを説明する書類(基本操作手順書)を提出すること。	
備 考	各記入例(Word 形式)を参照のこと	

分類項目　5.1.13　基本操作手順書

(記入様式 1/6)

【IP-IF 対応デジタルレコーダ】

基本操作手順書

接続確認図は、タイプⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳのうち適合する「表示装置の接続確認図」を使用し、不要な図は削除すること。
また、二つ以上のタイプに適合する装置の場合は、代表タイプの基本操作手順書を提出すること。

タイプⅠ　:装置に記録・表示・制御の全てを含み、表示モニターを装置に接続する方式
タイプⅡ　:装置単独にて記録を行うが、設定及び表示は、接続した汎用または専用 PC にインストールした専用ソフトにより行い、当該 PC に表示モニタを接続する方式
タイプⅢ　:記録する装置(専用 PC＋専用ソフト)、制御・設定・表示を行う装置(専用 PC＋専用ソフト)の 2 つの PC にて装置を構成し、当該 PC に表示モニタを接続する方式
タイプⅣ　:装置(専用 PC)に記録・表示・制御の全て(専用ソフト)を含み、当該装置に表示モニタを接続する方式

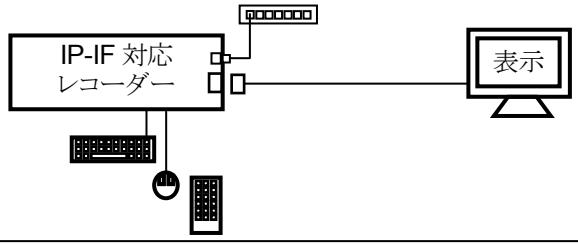
記入日:2010.　.

機器型式:

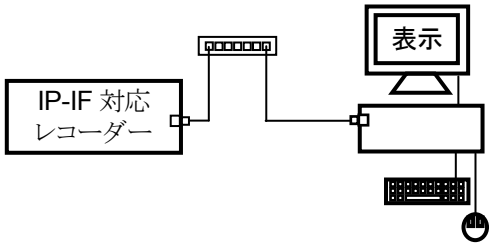
事 業 者 :

適合するタイプ

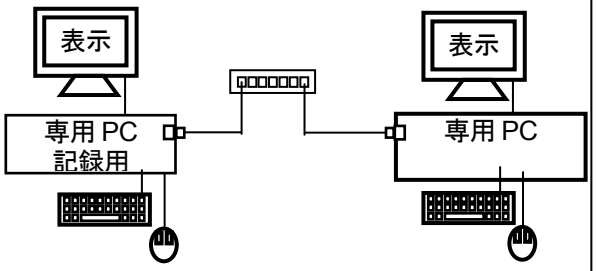
タイプⅠ　:装置に記録・表示・制御の全てを含み、表示モニターを装置に接続する方式



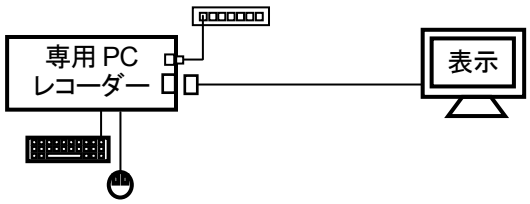
タイプⅡ　:装置単独にて記録を行うが、設定及び表示は、表示モニターを装置に接続する方式



タイプⅢ　:記録する装置(専用 PC＋専用ソフト)、制御・設定・表示を行う装置(専用 PC＋専用ソフト)の 2 つの PC にて装置を構成し、当該 PC に表示モニタを接続する方式

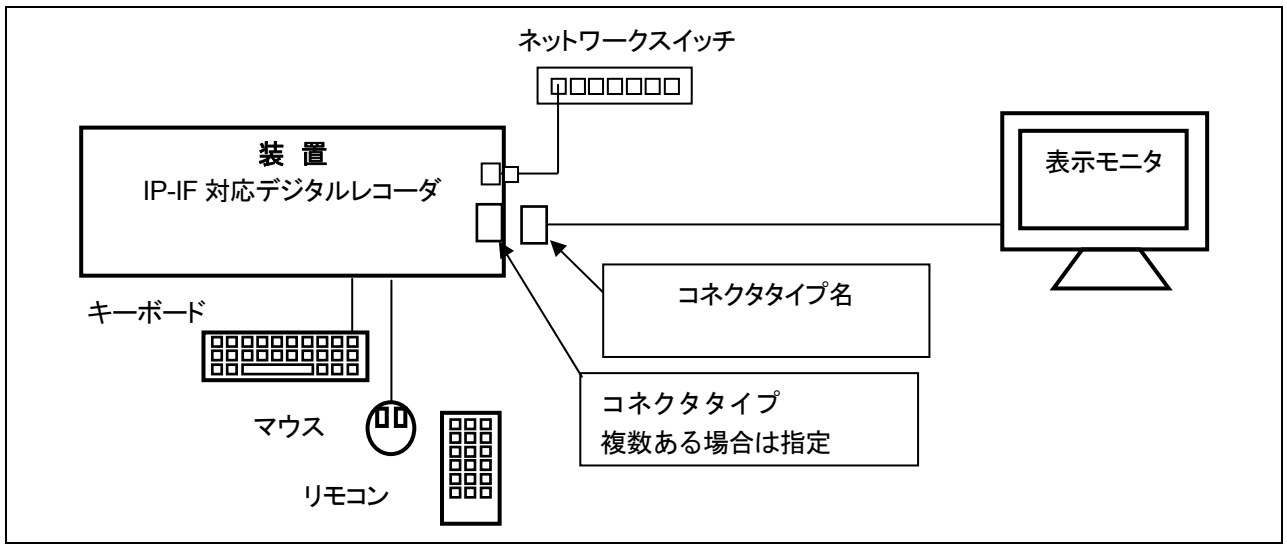


タイプⅣ　:装置(専用 PC)に記録・表示・制御の全て(専用ソフト)を含み、当該装置に表示モニタを接続する方式



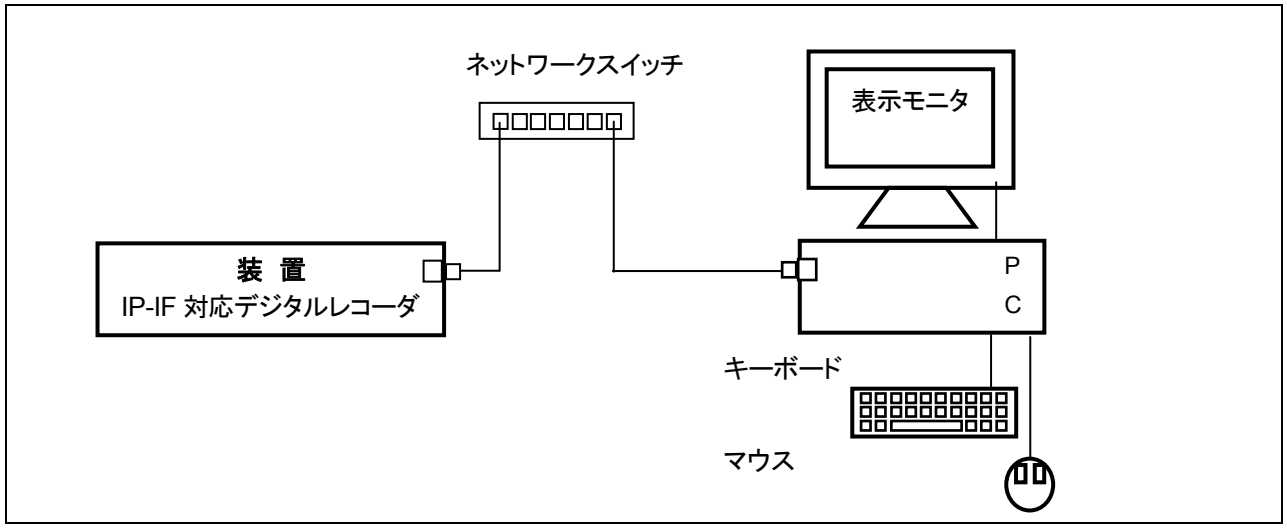
適合するタイプ以外は、×印をつけ抹消のこと

1.表示装置の接続確認(タイプⅠ)



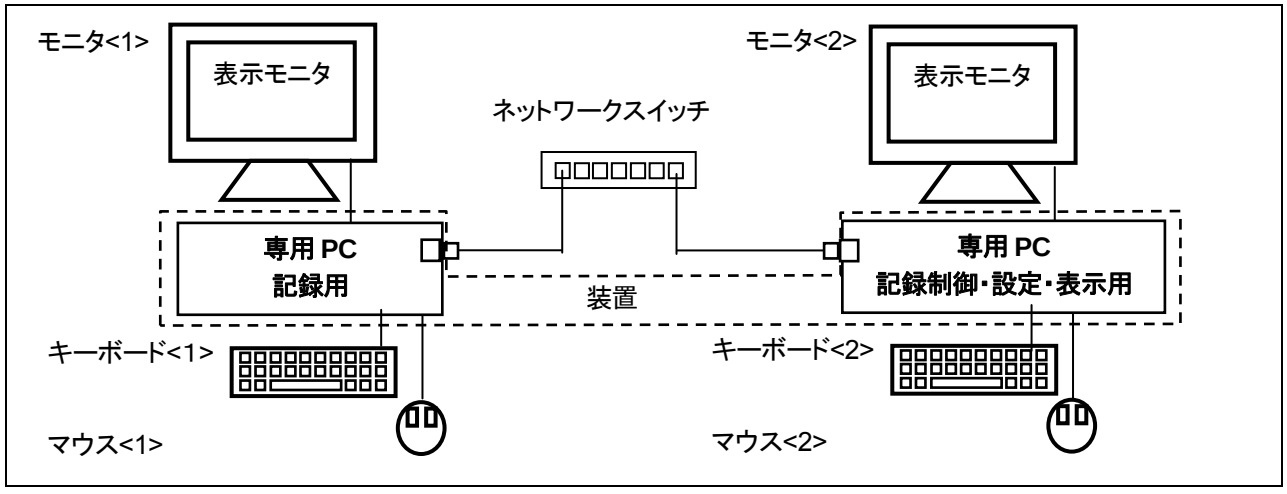
注意:キーボード, マウス, リモコンは、不要な場合は各々削除のこと

1.表示装置の接続確認(タイプⅡ)



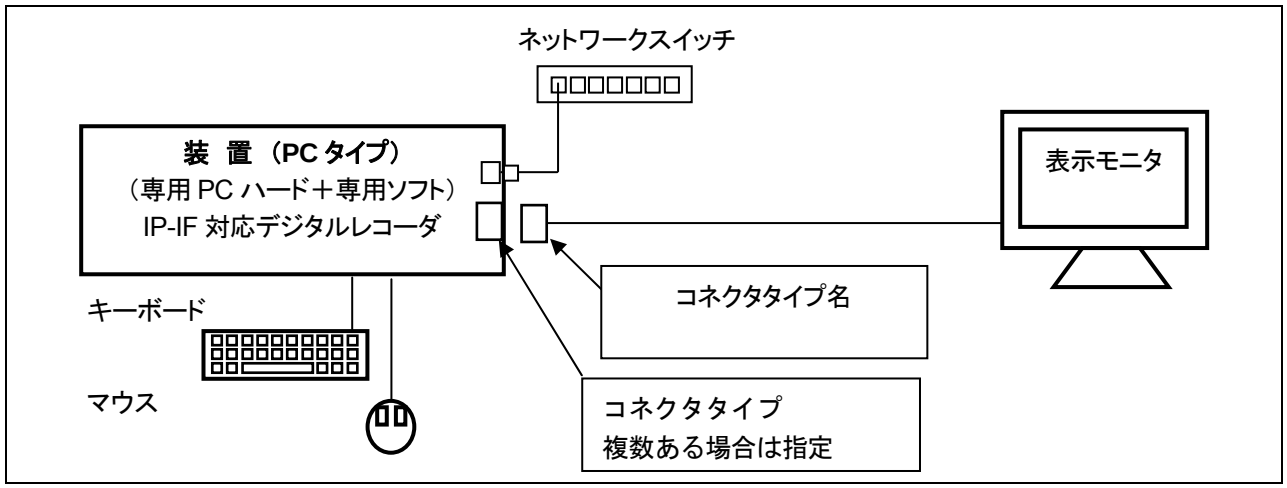
注意:キーボード, マウスは、不要な場合は各々削除のこと

1.表示装置の接続確認(タイプⅢ)



注意:キーボード, マウスは、不要な場合は各々削除のこと

1.表示装置の接続確認(タイプⅣ)



注意:キーボード, マウス, リモコンは、不要な場合は各々削除のこと

2.モードロック解除　　参照:

モードロック方式:①　　②

モードロック解除操作手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考

（記入様式 2/6）

3. 記録画像の再生　　参照:

検索方式:①日時を検索して再生　②
③　④

記録画像の再生操作手順（①日時を検索して再生する場合）

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考

①日時を検索して再生　以外の再生方法は記載不要

（記入様式 3/6）

4.記録画質の確認　　参照:

画質設定値:SUPER FINE, FINE, NOMAL, EXTENDED （SUPER FINE が最高画質）

記録画質の確認手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考

5.フレームレートの確認　　参照:

フレームレートの確認手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考

（記入様式 4/6）

6.画像取出し方法の概要　　参照:

取出し方式:①　　②

③　　④

①

再生方法:

準備物:

手順	操作目的	操作手順	参照資料	備考

②

再生方法:

準備物:

手順	操作目的	操作手順	参照資料	備考

（記入様式 5/6）

③
再生方法:
準備物:

手順	操作目的	操作手順	参照資料	備考

④
再生方法:
準備物:

手順	操作目的	操作手順	参照資料	備考

7. モードロック設定　　参照:

モードロック方式:①　　②
③　　④

モードロック設定操作手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考

（記入様式 6/6）

8.前面パネルおよび参考図

分類項目　5.2.10　記録一体型屋外用
表記 1：基本操作手順書（記入例）

（記入様式 1/4）

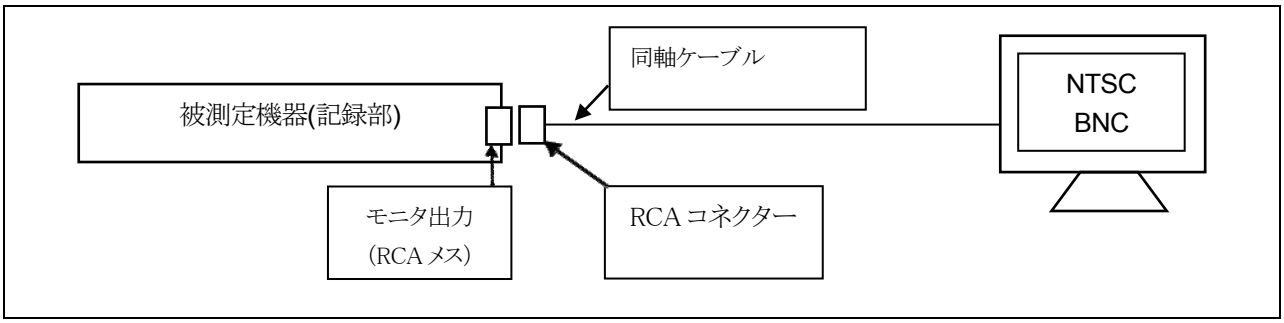
基本操作手順書

記入日:2012.12.7

機器型式:GAR-24BS

事 業 者 :株式会社ケービデバイス

1.表示装置の接続確認



2.モードロック解除

参照: 取扱説明書 9 頁レコーダ設定
14 頁映像再生

モードロック方式:①モードロック機能なし

モードロック解除操作手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考
1	モードロック解除	ライブ画面で 検索(右)・メニューボタンを押す	パスワード入力画面が表示される	レコーダ設定・映像再生の各操作ごとにパスワード入力にて解除
2	パスワード入力	パスワード入力画面でパスワードを入力	時間検索・設定画面へ移行する	

3.記録画像の再生

参照: 取扱説明書 14 頁映像再生

検索方式:①時間検索　②イベントサーチ
③　④

再生操作手順 ①時間検索 の場合

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考
1	時間検索画面の表示	ライブ画面で検索(右)ボタンを押す	パスワード入力画面が表示される	
2	パスワードの入力	パスワード入力画面でパスワードを入力	時間検索画面へ移行する	
3	日時の選択	時間検索画面の 1 行目の日付カーソル部で決定を押すとカレンダーが表示され検索したい日付を選び、OK ボタンを押す。	検索する日付が決定する。	
4	時刻の選択	時、分、秒の行でそれぞれ希望の時刻を選択し、OK ボタンを押す。	時刻が決定し再生が開始する。	

(記入様式 2/4)

再生操作手順 ①イベントサーチ の場合

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考
1	時間検索画面の表示	ライブ画面で検索(右)ボタンを押す	パスワード入力画面が表示される	
2	パスワードの入力	パスワード入力画面でパスワードを入力	時間検索画面へ移行する	
3	イベントサーチ画面の表示	時間検索画面左下 2 つ目の E マークを選択。	イベントサーチ画面へ移行する	
4	イベントの選択	日付の左の「＞」を選ぶとカレンダーが表示され、希望の日付を選び決定ボタンを押す。	イベントが絞り込まれる	
5	映像の再生	イベントログリスト内から再生する番号を選択	再生開始	

4.記録画質の確認　　参照: 取扱説明書 12～13 頁 2-3 機器設定

画質設定値:最低/低/標準/高/最高

記録画質の確認手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考
1	録画設定メニューを開く	メニューボタンを押し、パスワード入力後録画設定メニューを選択する。	録画設定画面が表示される	
2	記録画質の確認	CH1 の「画像品質」確認	記録画質を確認する。	
3	録画設定メニューを閉じる	メニューボタンまたは「閉じる」を押す。	ライブ画面に戻る	モードロック状態となる。

5.フレームレートの確認　　参照: 取扱説明書 13 頁 2-3 機器設定

フレームレートの確認手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考
1	録画設定メニューを開く	メニューボタンを押し、パスワード入力後録画設定メニューを選択する。	録画設定画面が表示される	
2	フレームレートの確認	C“録画設定”を選択する	フレームレートを確認できる。	
3	録画設定メニューを閉じる	メニューボタンまたは「閉じる」を押す。	ライブ画面に戻る	モードロック状態となる。

（記入様式 3/4）

6.画像取出し方法の概要

参照: 取扱説明書 15 頁～18 頁
4.PC 上での CF カード内の映像再生

取出し方式:①CF カードの取出し　②PC 上で CF カードより取り出し

③　④

①CF カードへの取出し
再生方法: PC 上で専用プレーヤを使用して再生(ビューアは自動的にダウンロードされている)
準備物: CF カード、PC、CF カードリーダー

手順	操作目的	操作手順	参照資料	備考
1	CF カードの挿入	GAR-24BS の電源が OFF であることを確認し本体へ挿入後電源を ON する		
2	取出しの実行	録画を停止し、本体の電源を OFF にし、CF カードを抜き取る		

①PC 上で CF カードより取り出し
再生方法: PC 上で専用プレーヤを使用して再生(ビューアは自動的にダウンロードされている)
準備物: CF カード、PC、CF カードリーダー

手順	操作目的	操作手順	参照資料	備考
1	CF カードの挿入	起動中 CF カードリーダーに CF カードを装着し、PC に接続。		
2	プレイヤーの起動	CF カード内の「player」をダブルクリック		
6	ファイルの選択	「M」のアイコンを選択し、表示されるファイルリストからバックアップするファイルをクリック		
	ファイル設定	バックアップアイコンを選択 「Camera」の項目のうち「Cam1」のみチェックを入れ、「Option」の項目すべてをはずす。「Backup Path」で保存先ディレクトリを指定。		
	バックアップ実行	「Start」をクリックするとバックアップが開始され、完了後に「OK」をクリック		
7				

(記入様式 4/4)

7.モードロック設定/運転再開動作

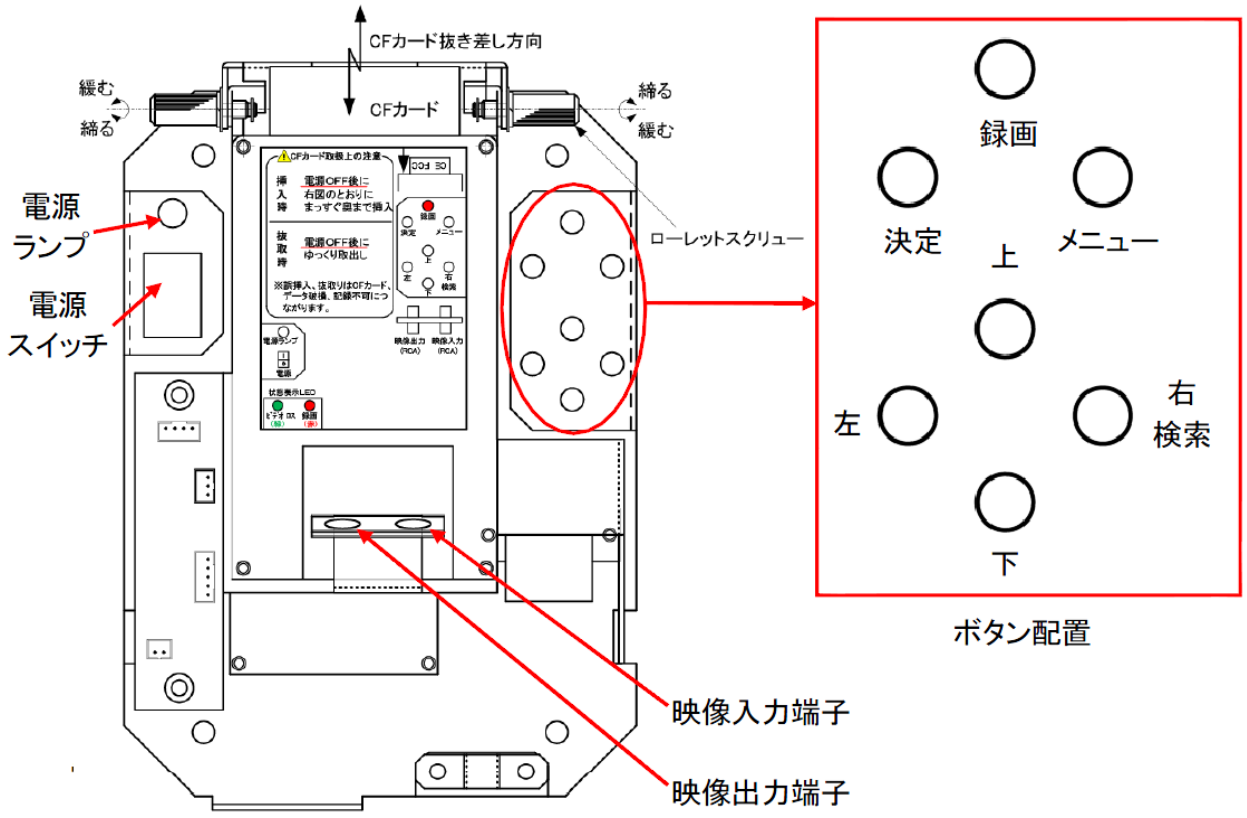
参照: 取扱説明書 6 頁～7 頁
1-4CF カードの抜差し方法

モードロック方式:①なし

モードロック設定操作/運転再開動作手順

手順	操作目的	操作手順	操作結果	備考
1	モードロック設定	各操作後にメニューボタンまたは「閉じる」を押す	ライブ画面に戻る	モードロック状態となる。
2	CF カードの挿入	CF カード抜差し部分に CF カード挿入		
3	録画の開始	録画ボタンを押す。	本機底部の LED 表示ランプの REC ランプの点灯	

8 本体パネル



電源スイッチ ： 本機の電源を ON/OFF できます。
映像入力端子 ： カメラが接続されています。**端子を抜かないで下さい。**
映像出力端子 ： 本機の映像を確認する際、モニターと接続します。